

道切り拓くための未来へ

希望を胸に本学へ入学した学生たちは、
本日、喜びを胸に学舎を巣立っていく
写真＝平成18年入学式より



太平台を飛び立つ 356名の翼 第41回卒業式



写真＝平成19年
卒業式より



國學院大學
栃木短期大学
栃木市平井町608
〒328-8588
TEL0282-22-5511
FAX0282-22-5743
編集 学報編集部

第157号

去りがたく あけぼの
空翔びめぐり 鳴き交は
すなり。あはれ 鶴群
岡野 弘彦

第41回卒業式は、3月18日
午前10時30分より学園40周年
記念館を式場として多数の来
賓・ご父母・教職員が列席
し、厳粛且つ盛大に執り行わ
れる。

式は国歌斉唱で始まり、中
村幸弘学長から各学科の総代
に卒業証書が授与される。総
代をつとめるのは、国文学科
は矢口めぐみさん、家政学科
は鈴木藍さん、初等教育学科
は渡邊裕子さん、日本史学科
は後閑なつきさん、商学科は
中台晴香さんである。

中村学長告辞、木村好成理
事長祝辞のあと、福田富一
木県知事、本学同窓会「斯花
会」代表、8期国文学科卒業
前橋（旧姓笹井）陽子さんか
ら来賓祝辞をいただく。在学
生を代表し作井智治学生会長
（商学科一年）が送辞を述べ、
卒業生を代表し日本史学科の
林友理恵さんが答辞を述べ
る。「仰げば尊し」を合唱の
あと、卒業生記念品目録が小
林裕貴前学生会長から中村学
長に手渡される。最後に校歌
斉唱、「蛍の光」を合唱して
式を閉じる。

卒業式終了後、各クラス担

任から卒業生一人ひとりに卒
業証書が手渡され、学舎を巣
立っていく。

佐々木賞を六名に授与

この賞は佐々木周二学園長
記念奨学金制度を基に作られ
たもので、各学科の成績・人
物ともに優秀な者に賞状とブ
ロンズ像が授与される。

国文学科 矢口めぐみ
家政学科 鈴木 藍
初等教育学科 渡邊 裕子
日本史学科 林 友理恵
商 学 科 後閑なつき
中台 晴香

初等教育学科41期生 卒業制作品買い上げ一点

モザイク画（共同制作）
『二十歳の時間』
江部沙也香 大貫 恵理
藤田真智子

第41期卒業生数

（ ）内は第1期生より通算

国文学科	84名	(6,986)
家政学科	84名	(4,473)
初等教育学科	86名	(6,136)
日本史学科	60名	(2,156)
商学科	42名	(1,908)
総数	356名	(21,659)

今日の喜びを明日の歩みに

学 長 中 村 幸 弘

「卒業、おめでとうございます。」

学校という言葉は中国伝来のもので、早くも上代から用例を見ます。ただ、課程の修了を制度として定め、卒業と呼ぶようになるのは、明治初年以降です。その式典の日の小学唱歌が、「蛍の光」と

卒業生に贈る言葉



平成十八年の春に迎えた第四十一期生も、二年間の蛍雪功成り、いよいよ卒業です。おめでとうございます。

本学での学びは修了しましたが、さらに大学等に進んで学業を積む方、社会人として職に就く方、すぐに家庭に入る方

理事長・学監 木 村 好 成

生き甲斐ある人生を送られるように

「仰げば尊し」とでした。

長く歌い継がれた、それらの唱歌は、いまでも、師弟の相互がともに抱きたい思いをみごとに歌い上げてくれています。もちろん、時代の好みは変わります。

「旅立ちの日に」を、在校生や先生方と一緒に合唱し、瞳を濡らして巣立ち、二年前、本学に入学された方もいらっしやいます。

地球は、人類ともども、目まぐるしく姿を変えつづけています。国際化とか情報化とかいう言葉も新鮮味を失いました。グローバルゼーションやネオリベリズムをどう受けとめたらよいか、悩む日々です。そうではあっても、本学で出

等々、いろいろななかたちで巣立ち行かれるわけですが、それぞれの前途に幸せ多いことを祈ってやみません。

さて、私自身の人生を振り返りながら皆さんへの饒の言葉を贈ります。

それは、「明日に向かって、一所懸命に生きなさい」と言うことです。

「人間、明日のことは分からない」などと言う人もいますが、「明日」は「今日」の続きにあります。「今日」・「現在」・「ただ今」の続きに明日があり、未来があるのです。「今日」・「現在」・「ただ今」を一所懸命に生きれば、明日への希望が湧いてくるというものです。

私どもの柔道の師・三船久蔵十段は、

会った諸君と私も教師との心の交わりは、変わってほしくないし、変わらないと信じます。「蛍の光」にも「旅立ちの日に」にも、通う思いが読みとれます。

職場という世界に始めて入る諸君、四年制へと編入する諸君、全員、短期大学の課程を修了し、その喜びに、いま、浸っています。その、今日の喜びを明日の歩みに繋げていってください。人生の節目は、すべて、次の営みへのステップなのです。

時には、明日の见えない日もあります。そんな日には、直近の喜びを思い出してください。明日が見えたと、きっと明後日も見えてくるでしょう。

「今日のことは今日、今日の楽しみは明日」とおっしゃっていました。「今日行うべきことは今日、ただ今、ただ今に行いなさい。今日行うべきことを、明日に延ばしてはいけない」ということです。

そのためには、「今日の楽しみごと、今日の遊びごと、それは明日行いなさい」というのです。明日になって迎えたその日は、また今日ですから、「今日のことは今日、今日の楽しみは明日」ということになります。そのようにして一所懸命に努力した結果が三船先生を柔道十段という最高段位に列せしめたのです。皆さんも人生に目標を定め、弛まぬ努力で成功されますよう祈っています。

多様性とオリジナリティ

教養科目・教授

佐 藤 圭 一



日本発で世界の多様性を映し出しているものとして、マンガ・アニメ、スシ、ハルキ・ムラカミがある。日本のマンガ・アニメについてはよく知られている。スシは「二十一世紀のマクドナルド」と評される。そして日本の若者が、留学先でハルキ・ムラカミに初めて接して、卒業にする時代だそう。世界で読まれるハルキ・ムラカミは英語からの重訳が多いということだが、日本語の原作がある。そして、「すしポリス」と揶揄されもしたが、和食の認定制度には「純正の和食」という意識がある。そこではオリジナリティの重要性が語られている。日本文化のオリジナリティを学び、卒業していく皆さんに幸多いことを心から願っています。

自分の色を出そう

国文学科長・教授
林 田 孝 和

いよいよ社会への門出ですね。ご卒業、おめでとう。

このところ教えていて痛感させられるのは、若者たちが、何事につけても淡泊で諦めが早すぎるということです。折口信夫は、弟子たちに「しゅうねくあれ」と教えています。諦めてしまえば、何も生まれません。執着することによって道は開けるのです。

ただ感覚的に生きるのではなく、物事に執着することによって、自分の色が出る、その人の個性が生まれると思います。恋愛・結婚、育児・仕事、その場その場で、他の人よりも少しだけ執着し生き続けられるようにお勧めします。どうぞ、个性的で豊かなあなたの人生を、しっかりと歩いてください。

食の品格

家政学科長・教授
北 村 奉 正

生活の基本といわれる衣食住の中で、食の格は低いようです。例えば、指定文化財に歴史的な建物や衣装はありますが、食べ物は聞いたことがありません。身近過ぎて保存が難しいからでしょうか。

英語には、日本語の「いただきます」「ごちそうさま」に相当する言葉がない、ということは、食べ物を作ってくれた人への感謝の気持ちを表す必要がないと考えられます。

日本には、伝統食などで繊細な料理や旨味を生かした食文化の歴史があります。最近では輸入冷凍ギョーザ中毒事件など、食の安全が揺らいでいますが、究極はやはり地産地消です。食の品格を保たなければ、生活が危うくなります。食は命の基本です。卒業後も健やかに賢く生きましよう。



藍より出でて藍より青し

初等教育学科長・教授
大 西 秀 彦

皆さんとは保育・環境の時間に「藍染め」をやりました。昔から人は、植物からとった染料で糸や布を染めました。その代表的なものが、タデ科の植物のアイを使った藍染めです。

本来、アイの葉を発酵させて染料にするのですが、皆さんとは生葉を直接すりつぶして染めました。アイの葉のどこにある色があるのか不思議に思った人もいることでしょう。

「藍より出でて藍より青し」という諺があります。その意味するところは「人間が学問を続けることによって、もって生まれた性質を超える人物になる」ことだといえます。自分では気づかない素晴らしいものが貴方の中に存在するのです。自分を磨いてこそ、その輝きが現れるのです。

品格ある社会への道

日本史学科長・教授
田 中 正 弘

二百六十万部という爆発的人気の藤原正彦氏著『国家の品格』以来、品格を論じ、これを具体的にアドバイスする坂東真理子氏の手になる『女性の品格』や『親の品格』等もベストセラーと聞きます。

こうした現象の背景には、戦後日本の経済優先主義の反省と、品位・気品の回復を願う多くの人々の共感があるからです。そして社会の品格のなさは、モラルの低下と分かち難く結びつき、今大騒ぎの食品業界だけに限らない所に問題の深刻さがあります。

二十一世紀の日本はいかに成熟した品格ある社会を築けるか、この社会を支える皆さんの双肩にかかっています。

品格ある社会の基盤は、皆さんの日常生活と自覚ある言動にあるのです。



社会問題への関心を

商学科長・教授
秋 山 誠 一

電車でパソコンを打つサラリーマン、マンガ雑誌を読むサラリーマン。IT革命後、二四時間七日間体制で休みなく働き、暇があると、現実逃避でマンガでも読まなくてはやっていけないということか。サブプライム問題や原油高を見ればわかるが、世界や日本の動きは、私たちの生活に大きな影響を及ぼす。私たちの決定や行動が、家計、企業、国家を通じて、日本や世界のあり方、動きに反映する。

だから、卒業しても世界や日本の動きに関心を持って欲しい。それは自分の運命に関心を持つことである。仕事が大変でも活字から離れることなく、仕事以外の新聞や総合雑誌に目を通して、世界や日本のあり方を考える時間を少しでも持ち続けて欲しい。

卒業生に贈る言葉 * 卒業生氏名

国文学科 一組

新たな目標に向かって

教授 村山昌俊

卒業おめでとう。

本学入学後の目標を胸に秘めて過ごした二年間の学生生活をどう感じましたか。短いと感じましたか。それとも長と感じましたか。どちらにせよ、誰もがまた新たな目標に向かって旅立っていくことになります。長い人生、目標の変更はこれまた誰にもあります。うまくいかなくても、あせらず、くさらず、どうか頑張ってください。お元気で。

阿久津七美 浅川美幸 石川智映
石川陽子 石崎友紀 石塚 瑛
磯部由加里 井野口愛美 岩淵力也
内山毅弘 大金亜由美 太田裕子
太田有香 大高貴詳 大野こゆき
岡安 南 小川知穂 小野口絵巳
小野里しづ子 小野田有佳 小野等恵
尾林 瞳 笠原正男 片山知奈都
加藤 葵 加藤 舞 金久保智咲
狩野礼奈 岸 恵吾 岸田康秀
北原 碧 北山美緒 木村文香
木村香香 木村浩子 熊倉 俊

国文学科 二組

卒業おめでとう

准教授 大山 尚

まづもろともにかがやく宇宙の微塵となりて無方の空にちらばらう
過ぎ去っていく二年の月日のうちには、人や書物などとの素敵な出会いがたくさんあったことだろうと思います。

それらの出会いから学んだことを糧にして、これから進んで行く限りなく広い世界の中で、皆さんがそれぞれ輝いていけることを願っています。卒業おめでとう！

佐瀬恵美香 島村未来 鈴木智絵
関口朋良 関口友加里 高塚 彩
高橋詩織 高橋理佳 多賀谷祐子
高山奈々子 瀧田 朱 玉井里枝
細川光穂 寺崎有里 寺澤はつみ
中川しづか 中原綾子 生田目蓮香
野中恵美 橋田歩巳 長谷川美春
原美佳子 福田春花 藤倉 一美

家政学科 一組

出藍の誉れ

教授 杉田 洋子

皆さん、ご卒業おめでとうございます。二年生後期の授業を通して、皆さんの成長ぶりを実感しました。二年間本学で学んだ成果を意識せずともしっかりと身につけられましたね。今後一年、二年、いや、毎日の積み重ねこそが未来を育むことを忘れずに日々精進して藍を越え、幸福な人生を自ら築いていかれますよう、ご活躍を期待し、お祈りしております。

青山子寿 赤羽理加 阿部友佳子
池田美都里 板子知恵 市村絵美
大澤結香 大島尚子 大橋彩加
大橋幸恵 大前綾香 岡村尚美
尾崎 恵 落合真弓 小野紗也加
風見亜花里 金丸麻美 金真奈美
川嶋春香 川田真弓 岸真由美
木村可奈 木村沙保里 栗原志穂里

家政学科 二組

豊かで楽しい食卓を

教授 湯川 晴美

黒本裕子 小泉里紗 小矢島愛
齋藤宏美 坂本晴香 佐々木瑛菜
佐藤あゆみ 佐藤祥子 猪橋佑香里
篠原めぐみ 浄土美奈子 杉山敦美
杉山貴美 鈴木 藍 関根裕実
園田安里 染谷 葵 染谷里実
高橋逸美

「食べることは「生きる」こと」の最も基本的な営みです。それだけに食品氾濫時代といわれる現在こそ、食に対して宣伝や情報に左右されない確かな目と考え方を持つことが大切です。本当に豊かな食事とは様々な食品をバランス良くまんべんなく取り入れ、安全な食品で、しかも料理がおいしいこと。空腹で皆で食べるともっとおいしくなります。これから、ぜひ、豊かで楽しい食卓を演出して下さい。

高橋森子 高橋麗奈 夢沼瑞穂
立野麻衣 田中美咲 田中結衣
津井井さやか 鶴見恵里 手塚さゆり
直井香代 中野 唯 中山涼子
奈良部真紀 野口亜美 原田直美
樋山香菜子 平谷仁美 船戸川雅織

初等教育学科 一組

「啄」のこと

教授 坂口 耕史

禅宗の言葉である。鶏の卵が孵る時、雛が中から殻をつつく音が「啄」、母鶏が殻をくい破るのが「啄」。これらが機を一にして生じるところに教育の妙があるとする。

君たちの懸命の「啄」を聞き取れず「啄」することなく、また未だ熟さないうちに殻をかみ破って雛の命さえ脅かす、という愚の繰り返しだったことを恐れるのみ。陳謝。

青木広志 阿久津有香 荻井初美
有住友希 石川紗織 石原佐穂
石原正裕 石原佳章 猪瀬勝子
入田かおり 岩瀬聡美 蛭澤里美
海老原沙織 江部沙也香 大島涼子
大貫恵理 大林明菜 大山結加
大吉千恵弥 小平莉代

初等教育学科二組

誇りを持って

教授 小川 澄江

ご卒業おめでとうございます。私学である本学は、建学の精神に基づいて教育を行っています。この建学の精神は「見はるかすもの」で始まる校歌に表れています。本学で学ばれたことを誇りに、知的にも道徳的にも高い志を抱いて人格を磨き、精神的に豊かな日本人として、世界の平和と人類の福祉に貢献されることを願っています。

小貴雅恵 面川高輝 片柳愛美
賀長美幸 金井由花 金澤由香里
鹿内一馬 神郡 悠 菅野小波
菅野嘉哉 菊池沙織 木澤淑衣
岸 香里 草野いずみ 栗原麻結
栗原麻利 小坂橋瑞希 腰塚光恵
狐塚知恵子 小筆千穂 斎藤沙織

初等教育学科三組

いつも唇に歌を!

教授 小川 裕二

御卒業おめでとうございませう。皆さんは、各々の思い出を胸に、二年間過ごした学舎を巣立って行くのですね。人生は、楽しい事よりも、苦し

い事が多いかもしれません。どんな状況であっても、明るい気持ちで忘れず苦境を乗り切ってください。先ず健康を保つ事。そして唇に歌を!音楽を愛する事は、人の心を豊かにし、若々しい感性を保ちます。どうぞお元気で。

坂入麻奈美 佐野仁美 篠田七瀬
杉浦菜津美 高井紗理 高久雄介
武田真子 立花優貴 田中真由美
津久井隆人 中川祐香 中嶋智美
長瀬麻美 中元彩乃 中山瑛利子
中山由加里 奈良啓加 成瀬由布紀
野口嘉美 野沢美香 蓮見友美
日向野直子

初等教育学科四組

素晴らしい言葉

講師 栗原 和子

「ありがとう」と言えたなら心が温まってきた、「ありがとう」と言えたなら、君に幸せ届くよ、世界中の「ありがとう」が、君と僕に届くよ、ありがとう、ありがとう、それは素晴らしい言葉。子ども達の歌声が響いてきて、私も幸せな気分になります。どんな時でも素直な心で人に感謝する事を忘れずに!

兵頭礼菜 福井綾菜 福田友香
藤田真智子 古川清美 古橋舞都華
細木悠子 本田 望 丸山田鶴
三澤季佳 宮本 彩 村岡千歌
矢板千佳 山崎美穂 山崎理恵
吉原望美 吉原麻衣子 和氣郷美
渡辺愛菜 渡邊真弓 渡邊裕子
増形真未 松井麻衣

日本史学科一組

歴史を楽しもう

教授 酒寄 雅志

今、私は安藤広重の『東海道五十三次』に夢中です。宿場ごとに丹念に見ていくと、江戸の社会の様子が読み取れ、門外漢の私も「目から鱗」と言うような面白さを味わっています。皆さんは、二年間、史料解説に悪戦苦闘し、発掘に汗を流し、そして歴史の面白さを大いに実感したことでしょう。卒業後も短大での勉学を生かして、歴史を楽しんで下さい。

青木あり 朝岡歩美 阿部真吏亜
石川裕江 石原 崇 白井美幸
内山裕佳子 大内利奈 大島淑江
男澤愛美 小原慎介 折川里沙
柿沼恵利奈 川村絵里花 木村美子
蔵野泰洋 後関なつき 小浪義人

日本史学科二組

「今を生きる」

教授 松本 隆晴

一流企業の重役を退職して高野山の僧侶となった島村大心は、写真を長い間撮ったことがないという。写真をみると、過去を懐かしんだり、悔やんだりするからである。過去は懐古や悔恨するものではない。未来も計画ばかり考えていると、準備の生活になってしまう。一生、準備ではつまらない。準備が不十分でも、今を大いに生きることだ、という。なぜか心ひかれる主張である。

鈴木侑加子 関根知哉 瀬端 薫
高島 有 高橋寛美 高山いず美
田崎万豊 田中早織 田中理絵
知久真美 鶴崎広実 中里裕樹
中島 幸 中山みさき 西里里沙
萩原由佳 林友理恵 藤野拓哉
蛇石翔太 星沢綾華 星野千春
前田いつみ 御子具奈津美 三ツ眞子
村上りか 安塚あい 谷中恵一
山田有紀 吉澤夏美 吉田千夏

商学科一組

卒業おめでとう。

教授 寺崎 宣昭

日本には「世間」がある。世間という風土のなかで、人と人とかかわりあいをもちながら、日本人は生活している。その生活世界で大切なものは、言葉です。言葉は人に伝わらなければ意味がない。「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく」井上ひさしの言葉です。この言葉を旅立つ君たちへの贈る言葉とします。お元気で、そしてさようなら。

阿久津大喜 石塚香織 岩田麻美
岩田有加 上野真映 落合沙緒里
尾花 静 上岡百合恵 亀田 梢
茅房 泉 河合智美 川田千晶
岸田耶花 木村充志 小泉祐美子
小林真治 小林真弓 小松美紀
齋藤恵美 斎藤万純 笹本 茜
猿山ひろみ 瀧川健太 須釜里美
杉田梨奈 高橋紗央里 高橋 悠
谷川友里恵 手島理恵 永島綾乃
中台晴香 生須小津江 根岸かほり
野原美保 早坂久美子 原 香織
委文美奈美 平吹幸子 福島 碧
益子陽介 山井綾介 山中一浩

太平台での二年間：感謝とお別れのことば

素晴らしい出会い

国文学科 横山 迪子

「図書館司書の資格を取る！」と意気込み本学に入學してから、瞬く間に二年が経ちました。

本学では素晴らしい先生方からご指導をいただき、学ぶことの楽しさ、さらには知識を深めることの面白さを知りました。また、お互い切磋琢磨できる友人たちに出会えたことは私の何よりの宝物です。私はこの学校でかけがえのない大切なものを手に入れました。そしてこれらは私を成長させてくれました。出会いを支えてくれた國栃、先生方、友人たち、ずっと支えて



日光親睦旅行

くれた家族、心から感謝しています。二年間ありがとうございました。

夢から目標へ

家政学科 鈴木 藍

養護教諭になりたいという夢を胸に、本学に学んで早くも二年の月日が経ちました。

慣れない環境で新しいことにチャレンジすることはそう簡単なことではなく、何度も挫けそうになりました。しかし、その度に、先生方、そして同じ夢を持つ友達、さらに家族に支えられこまどくることができました。そして、多くのことを学んでいくにつれ、養護教諭になりたいという夢は、具体的な目標へと変わっていききました。この学校で学んだたくさんの方の力を生かして、子ども達の力になれる養護教諭になりたいと思います。

最後になりましたが、今まで親身にご指導くださいました教職員の皆さま、励ました友人達、支えてくれた家族に心から感謝を申し上げます。



体育祭

ます。二年間本当にありがとうございました。

充実した二年間

初等教育学科 石原 正裕

幸せな二年間でした。先生方、仲間達に恵まれたこと、今振り返ってみて、そう思います。先生方からは素晴らしい言葉をいただきました。

「子どもの『たい』を大切にしたい」「いいことをすれば、子どもは必ず良い方向に向かう」「『分らない』も答えの一つ」「お釈迦様の話」「人それぞれはあるのかないのか」これらの言葉は子どもと関わる時大切にしたいと思います。仲間たちには色々な場面で助けられました。「助け合う・協力する」ことの素晴らしさを再認識させてくれました。苦手な声楽

國學院大學への道

日本史学科 林 友理恵

のテストのために練習につき合ってくれた友人には感謝しきりです。

國學院大學への編入を目標に、本学に入學して過ごした二年間は、今となってはとても早く感じています。初めての寮生活など、何もかもが新鮮で、とても充実した毎日でした。



秋季研修旅行

本学では、古文書調査や発掘調査など、さまざまな体験をすることができました。本学で歴史学を学ぶことができたからこそ、私は考古学に触れることができたのではないか、と思っています。また、

人生の糧

商学科 中台 晴香

先生をはじめ先輩や友人とさまざまな多くの出会いがあり、成長できたと思います。最後になりましたが、講義以外でも親身にご指導くださいました先生方、二年間私を支えてくれた友人達に心より感謝し、御礼申し上げます。

短大での一番の思い出は、一年生秋季研修旅行です。卓上の学習ではなく、実際に工場を見学したことや、会津観光など、クラスメイトと楽しいひとときを過ごしました。

また、秘書検定や簿記検定にも挑戦しました。検定は難しいですが、授業である程度の基礎を学べましたし、先生方が授業以外にも補講をしてくださいました。

私は、短大で多くのことを学びました。学校生活を通して、大人としての自覚や基本的な礼儀作法など、これからの人生の糧になる二年間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。



第41期生のあゆみ



平成18年度(1年次)

4.10	第41回入学式 (379名)
4.11	学長講演
4.11~15	オリエンテーション・健康診断
4.14~15	商学科合宿研修
4.24	履修届提出
4.26	日光親睦旅行
5.17	体育祭
6.3	初等教育学科講演会
6.10	歌舞伎鑑賞教室
6.19	初等教育学科幼稚園・小学校観察
6.20~24	初等教育学科唐沢青年の家宿泊研修
7.10~20	集中講義・補習講義
7.10	家政学科臨床検査
7.11	国文学科文学散歩
7.11	日本史学科史跡調査
7.12	家政学科フード系見学会
7.13	日本史学科栃木県立博物館実務見学
7.15	初等教育学科講演会
7.18~20	日本史学科古文書調査実習
7.21~9.3	夏季休暇
8.1~10	日本史学科考古学実習遺跡発掘調査(長岡市)
8.24~9.1	日本史学科考古学実習遺跡発掘調査(栃木市)
9.1~2	国文学科コース別課外研修
9.11~27	前期試験
9.27	職業意識啓発セミナー
10.7	学園創立46周年記念式典
10.9	学園創立記念日
10.11~12	秋季研修旅行
11.1	国文学科講演会
11.1	家政学科教員採用試験対策講習会
11.18~19	第40回春花祭
12.11~20	集中講義・補習講義
12.11	栃木県就職ガイダンス
12.11~13	日本史学科古文書調査実習
12.21~1.8	冬季休暇
1.31	日本史学科講演会
2.4	第29回合唱団定期演奏会
2.5~20	後期試験
2.21	進路ガイダンス
2.22	商学科工場見学
2.23	日本史学科卒業研究発表会・史学会総会
2.26~27	家政学科普通救命講習
3.18	第40回卒業式

平成19年度(2年次)

4.9	第42回入学式・成績表交付
4.10	学長講演
4.10~14	オリエンテーション・健康診断
4.23	履修届提出
5.16	体育祭
6.4~29	国文・家政・日本史学科教育実習 (~6.22 養護のみ)
6.18~22	初等教育学科教育の観察と参加
7.9~19	集中講義・補習講義
7.9	初等教育学科講演会
7.11	日本史学科博物館見学
7.17~19	日本史学科古文書調査実習
7.20~9.2	夏季休暇
8.3~12	日本史学科考古学実習遺跡発掘調査(長岡市)
8.21~8.29	日本史学科考古学実習遺跡発掘調査(栃木市)
9.12~22	前期試験
10.1~26	初等教育学科教育実習
10.6	学園創立47周年記念式典
10.9	学園創立記念日
10.13	家政学科医療管理秘書士能力認定試験
10.31	国文学科講演会
11.17~18	第41回春花祭
12.1	第30回合唱団定期演奏会
12.3~7	国文学科・日本史学科 卒業研究提出
12.11~20	集中講義・補習講義
12.12	初等教育学科教育実習報告会
12.16	家政学科フードスペシャリスト認定試験
12.21~1.7	冬季休暇
1.18	初等教育学科卒業研究・制作提出
1.22~31	後期試験
1.30	日本史学科講演会
1.31	家政学科臨床実習発表会
2.14~15	初等教育学科筑波大附属小学校参観
2.21	卒業確定者発表
2.26	日本史学科卒業研究発表会・史学会総会
3.17	卒業式予行
3.18	第41回卒業式 (356名)

國學院大學編入学試験結果

◆系列編入学合格者

文学部日本文学科 フレックスB	国文学科	25名
文学部史学科 フレックスB	日本史学科	18名
文学部史学科 フレックスA	日本史学科	5名
経済学部経済学科	商学科	3名
経済学部経営学科	商学科	2名

◆一般編入学合格者

文学部日本文学科 フレックスB	国文学科	2名
文学部史学科 フレックスB	日本史学科	2名
文学部史学科 フレックスA	日本史学科	4名
経済学部経済学科	商学科	1名

他大学編入学試験合格者

平成20年2月29日現在

千葉大学 文学部史学科	日本史学科	1名
群馬大学 社会情報学部情報社会科学科 商学科		1名
静岡大学 人文学部社会科学科	日本史学科	1名
大阪教育大学 教育学部教育学科	初等教育学科	1名
東北学院大学 文学部歴史学科	日本史学科	1名
仙台大学 体育学部健康福祉学科	家政学科	1名
東京福祉大学 社会福祉学部保育児童学科	初等教育学科	1名
駒澤大学 文学部社会科学科	日本史学科	1名
大正大学 文学部表現文化学科	日本史学科	1名
東海大学 文学部歴史学科	日本史学科	1名
日本女子大学 人間社会学部教育学科	初等教育学科	1名
鎌倉女子大学 家政学部家政保健学科	家政学科	1名
中部大学 人文学部歴史地理学科	日本史学科	1名

退任の言葉

終演の幕がおおるとき

体育教授 山下勝司

私の教員生活四十八年に、いよいよ終演の幕がおおる時がきました。今日まで、お世話になった理事長・学長先生はじめ関係の方々衷心より感謝申し上げます。すこし、私の履歴を回顧させていただきます。七十年前、昭和十二年に、岡山県勝間田町(現・勝央町)に生まれました。両親は、「将来は勝間田町を司る人物に成長して欲しい」との期待を込めて、勝司と名付けてくれました。その期待に背き、生まれ育った岡山を十八才で離れ、日本体育大学で学び、昭和三十五年四月、開校した國學院大學栃木高等学校に着任しました。誕生したばかりの、この学園に職を得ることができましたのは、日体大の恩師(故・荒川清美先生と令夫人御幸先生(現・國學院大學幼児教育専門学校長)のお導きによるものでした。それから、四十八年の歳月昭和六十一年三月まで二十六年を高校、以後二十二年は短期大学を、この学園一筋に教員として、勤めさせて



いただきました。感慨無量です。昭和三十五年、開校したばかりの國學院は、施設・設備等けっして恵まれた環境ではなく、毎日が学校造りという感じでした。初代校長佐々木周二先生(現・学園長)と十四人の教職員、百二十九名の生徒でスタートしました。当時の交通機関や道路状況は最悪、しかし、みな辛抱して、よく頑張りました。昭和六十一年四月、高校から短期大学に移動しました。短大での生活は、充実した環境での教鞭、研究、サークル活動等、毎日が楽しかったの一言です。なかでも、斯花祭での、うどん屋さん、二十年間継続できたのは、学生の、うまい、うまい、の一言が励みとなり、活力となって続けられたのだと思います。一度は、親に背いた自分に後ろめたさを感じた時もありまし

たが、自分で、やろうと、決意したことを、全うできたことに満足しています。

学生諸君へ

社会情勢は益々厳しく、荒波を乗り越えなければなりません。若い力を発揮し、挑戦してください。必ずや幸福を勝ちとるでしょう。

四十八年間、ありがとうございました。さようなら。

学会開催支援を謝す

日本文学教授 小林 吉一



本学創立の年、昭和四十一年に専任講師として赴任、ふつづかながら勤務し、このたび満四十二年にわたる専任教員としての定年を迎えました。永い間お世話になった学園当局をはじめ

関係の皆様方に対し、心から厚く御礼申し上げます。そして、学園ならびに本学の向後いっそうのご発展をひたすら念じます。なお、非常勤教員として、ひきつづき一部のお手伝いをさせていただきます(渋谷の大学も非常勤四十一年目に入ります)。

以下に、私がかかわり本学の全面的なご配慮をいただき運営した学術学会について、感謝をこめて記しておきたいと思っています。私は、古くから十指におよぶ国文学・民俗学関係の全国学会に所属していますが、そのすべてに研究機関誌があつて裨益多く、また年次大会などの研究集会に参加することも有益で、さらに会場校地域の臨地研修旅行(実演)なども魅力です。

本学が会場校となり開催した学会は、次の五件。順に上代文学会(昭和四十三年)・日本歌謡学会(同四十六年)・国学院大学国文学会(同六十年)・古事記学会(同六十二年)・日本民俗学会(平成五年)でした(ほかに、千明守教授運営の軍記・語り物研究会が平成十二年にあつた)。私は、これらの一部で講演したり、臨地研修旅行の案内役をつとめたりしましたが、短期大学

という機関での全国学会の受け入れがそう多くない中、本学挙げての万般のご援助には、いつも面目を施させていただき、感謝しております。

まずは一年、そして三年

生活科教授 山口 令司

このたび、幼稚園教育要領並びに小学校学習指導要領の改訂内容が発表されました。

改訂の柱には、言語力の育成が挙げられています。自分で考え判断し、自分の言葉で語り、そして他者との協調的な生き方の出来る、ひととしての資質を身につけていくことを求めているようです。

この指導要領の実施によって、懸案の学力低下問題が解消されるかどうか注目される中「教師力の育成が先決だ」と論説する新聞もあるようです。これから教育現場に巣立っていく皆さんの前途は、厳しくもありやり甲斐もあるといったところでしょう。

過日、私は最後の授業の時にこの国の社会が採り入れている採用のシステムを考えると、例え職場に少々の嫌気を覚えた



ライフワークを携えて 金融論教授 飯田 晶夫

本学での楽しい思い出は、肉体労働と重なる。集団模擬面接（1984年から三年間、教員約30名が参加して5名一組の学生30組に対応）、斯花祭パフォーマンス大会（1985年から四年間、教員3名を含む15組が参加、421教室を毎回満員にした）、創立30周年記念シンポジウム（Ⅱ写真 1996年、栃木の文化人と栃木を語るフリースピーク 栃木市文化会館大ホール）

「まずは一年、頑張つて！」から始まり、「そしたら、三年頑張つて！」「次年には五年、楽しんで！」「七年経つと見えてくる……」「やがて十年！面白さが分かりだす」といった趣旨のお話でした。もち論、それぞれの歳月がもたらす試練の意味を兼ね添えてのものです。

教育に関わる仕事は、そのことに一所懸命励んだならば必ずやその仕事に含まれていく奥の深さに気づき、そのことに関わる楽しさや面白さを感じる時が訪れるものです。そして、この仕事に自分の人生をかけたことに満たされた思いを味わう日が訪れることでしょう。

いま、私はその醍醐味を味わいつつ退職の日を迎えようとしている幸せ者のひとりなのです……。どうも、有難うございました。



が満席）などで裏方をとめた。準備過程での同僚や学生たちとの交遊の日々は熱く燃えた。あんな肉弾戦はもうできない。定年の日がきたということだ。

大学教師になってよかったことは、春、夏、冬に自由な研究時間があることだ。私などは専門分野の論文を書くよりもつぎつぎに押し寄せるテーマを追いつけ、自分の興味のままに本を読み飛ばしてきた。本当は、教師なら講義ノートの充実にもっと時間を割くべきなのだろうが、悩みながらも休暇中、ギリギリまで教師ではなかった。ただ、この好奇心は、教師という機関車の馬力を上げることになり、授業では長い編成の貨車を曳くことができた、と思っている。また、このおかげでやっとライフワークを見定めることができた。これから私は、自分の論文で触れた歴史上の人物たちと語り合うため芭蕉のような旅をしたい。「夢は枯野を……」の日がいつかはくるが、それまではライフワークを携えて歴史研究の中で自分という尺度を磨いていくだろう。ではみなさまありがとうございました。

第30回 定期演奏会 卒業生とともに晴れ舞台

12月1日午後、第30回定期演奏会が栃木市文化会館大ホールにおいて開かれた。

演奏会は4部構成からなり、第1部はコーラス部による学生歌『芙蓉を仰ぐ』の演奏で始まり、初等教育学科1年生

女子45名とコーラス部、コーラス部卒業生35名による合唱が小川沙織講師のピアノ伴奏で女声合唱曲『落葉松』よりを演奏した。続いての混声合唱と器楽演奏による『クリスマス・ソング・メドレー』を、1年生男子9名、2年生90名が、坂入麻奈美さん（2年）のピアノ伴奏と室内楽研究会の器楽演奏で演奏した。

第2部は室内楽研究会の3グループが登場し、息のあった器楽アンサンブルを披露。曲は打楽器八重奏『くハつの打楽器群のための〜ジャンヌ』

・ダルク』、混成九重奏『くるみ割り人形』より、金管アンサンブル『金管楽器のための序曲』。

続いて第3部は増田のり子氏のソプラノと小川裕二教授によるバリトン演奏で、歌劇『ファウスト』と『アンドレア・シェニエ』のアリア、『メリー・ウィドー』の二重唱が演奏された。

第4部はコーラス部による演奏で、女声合唱曲集より『風の詩集』そのひとがうたうとき』を披露し、美しいハーモニに会場から惜しめない拍手が送られた。



コーラス部の女声合唱

学習公開

初等教育学科
研修に参加

2月14・15日の2日間、社団法人初等教育研究会による「学習公開・初等教育研修会」が筑波大学附属小学校（東京



参加者であふれるほどの会場

都文京区）を会場にして開催され、本学初等教育学科からも小学校教育に関心の高い学生6名が参加した。

この研修会では、各教科や道徳、総合活動、英語活動などの授業が公開され、授業をもとに、ねらいや展開について徹底した討論が行われた。

その後開かれたそれぞれの分科会では、全国の優れた研究者や実践家による提案発表やシンポジウムなどが行われた。新学習指導要領案が2月15

日の夕方に発表されるといいう教育課程の改訂時期とも重なり、どの会場も活発で熱気に溢れた討論が行われた。

この研修会は参加者が非常に多く、授業会場に入るのにも苦労するほどだが、参加した学生たちは、朝早くから受付を済ませ、自分の希望する授業会場で熱心に参観する姿が見られた。

教育現場で子どもたちの前に立つことを目指す学生たちにとって、教育研究の厳しさとするばらしさに触れることのできる貴重な2日間となった。

アンサンブルコンテスト 東関東大会に2チーム出場

12月26日、宇都宮市文化会館で栃木県アンサンブルコンテストが開催され、室内楽研究会から3チームが出場した。

器八重奏が金賞、木管弦バス打楽器八重奏と金管八重奏が銀賞を受賞し、打楽器八重奏と木管弦バス打楽器八重奏が、栃木県代表として推薦さ



打楽器八重奏 写真：フォトライフ



木管弦バス打楽器八重奏 写真：フォトライフ



金管アンサンブル 写真：第30回定期演奏会より

れた。東関東大会は1月26日、宇都宮市文化会館で開催され、打楽器八重奏が銀賞、木管弦バス打楽器八重奏が銅賞をそれぞれ受賞した。

岩舟町立小野寺南小学校 表現活動交流会

2月26日、岩舟町立小野寺南小学校での「表現活動交流会」が同校体育館で実施され、初等教育学科1・2年生有志49名の学生が参加し、児童たちとの交流を深めた。学生たちは、表現活動のほか、体育館でのふれあい給

初等教育学科 教育実習報告会

12月12日初等教育学科1・2年生対象に教育実習報告会

が開かれた。教育実習を終えた2年生が、実習中の状況、研究授業や責任実習について、また小学校教員採用試験や幼稚園の就職活動の体験など、反省や後輩へのアドバイス等も含め発表した。来年度教育実習を実施する1年生にとって、先輩からの貴重な体験と今から準備しておくべきことがらや心構えが伝授された。

『イエス・ユー・キャン』

この報告会に関して担当の私のやったことは「丸投げ」である。つまり、2年生に委

せて、教師は何もしない。

それには、「すでに教育実習を経験したのだから、報告会くらいは自分たちだけでやるはずだ」という、尤もな理由がある。しかし根本的には、かねてから私たちが「学生の自主性・自発性を信じた」と考えているからである。学生に向って「委せるから思う通りにやれ」と言う場面は、1年生の夏期研修以来何度かあった。そして少くとも私は期待が裏切られたと思ったことは一度もない。君たちは言う資格がある。YES, WE CAN. と。

教授 坂口耕史

食や元気あふれる児童たちとの共遊にも積極的に取り組み、有意義な1日を過ごした。

教育実習以外にもこのような教育現場での実践は、教員を目指す学生にとって総合的な実践力を高める場となり、貴重な体験である。ご協力をいただいた小野寺南小学校の先生方と児童たちに深く感謝申し上げます。



強い関心を持って展示車を見学する学生たち

商学科 日産栃木工場見学

1月28日、商学科1年生に日産自動車栃木工場見学を実施した。車の製造工程、V字型回復をした日産の背景、車と環境や見学マナーについて事前指導を行った。

13時10分、関東地方で最大規模の高級車（フーガ、フェアレディZなど）生産工場に到着。ゲストホールで今年40周年を迎える当工場のモノづくり「日産生産方式（NPW）」の説明とビデオが上映された。その後、工場内を約2時間コースで自動車完成までの製造工程（プレス↓車体

組立↓塗装↓最終組立↓オフライン↓ファイナルテスト↓出荷）を見学した。特に、行程の中で「宝船」や高精度で自動化した車体組立と自動溶接ロボットの導入による作業の効率化を実感でき素晴らしい。

見学後、館長から「人と車と自然の共生」をモットーとした顧客基点の「同期生産方式（品質・納期・コストの同期の実現）」に取り組んで車の製造をしているとの説明があった。その後、学生からモノづくりのアイデンティティ、快適な乗り心地と環境対策、車と代替エネルギー問題、流れ作業と労務管理への配慮などについて質問が出された。館長の丁寧な回答を受け、働く社員の姿を目の当たりにして16時10分に帰校した。

日本史学科 古文書調査実習・卒業研究発表会

◆古文書調査実習

昨年の12月17日（月）から19日（水）までの3日間、北館343号教室において、日本史学科の古文書学実習が実施された。例年の通り、夏期は2年生、冬期は1年生を中心に行われた。大平町歴史民俗資料館から借用した「白石家文書」に関して、近世から現代にいたる古文書の難読文字に挑戦し、学生個々が目録カードを作成した。このような古文書学の実習経験は、今後の教育成果につながる体験型学習として、たいへん有益であった。

◆卒業研究発表会

2月26日に、日本史学科の卒業研究発表会が実施された。例年通り、古代史・中世史・近世史・近代史・考古学・東洋史・歴史民俗学の順に発表が行われた。今回の発表は、例年以上に、画像を駆使したパワーポイントを使用したプレゼンテーションによって、写真や図をわかりやすく説明する工夫が行われた。来年に卒業研究を控える1年生は真剣に先輩の発表に耳を傾け、卒業生も多数参加するなど、例年以上の盛り上がりを見せた。

家政学科 臨床実習発表会・普通救命講習会

◆臨床実習発表会

去る1月31日、家政学科1年生、養護教諭課程履修者を対象に、臨床実習体験発表が行われた。選ばれた養護教諭課程履修の2年生7名は、夏季休暇中の病院実習の体験談を臨場感豊かに発表した。

今年度から医療秘書士・医療事務士の養成が養護教諭とは別になったため、医療事務実習者が1名発表に加わった。「病院の選び方」「依頼の時期と方法」「実習前の準備や病院との打合せ」等の準備段階から、実習中の心構えとして「いつも笑顔を絶やさず」「受け身ではなく、自分が何を学びたいか目的をはっきりさせて実習に臨むことが良い実習に繋がる」「等先輩からの示唆に富んだ話に、実習に少なからず不安を持っていた1年生は安堵感を得たようである。

◆普通救命講習会

2月26・27日の両日、家政学科養護教諭課程履修の1年生を対象に、普通救命講習が行われた。



人工呼吸の指導を受ける学生

講習では、意識確認、呼吸確認の方法、心肺蘇生法、異物除去法、止血法の講義と実技、AED（自動体外式除細動器）の使い方を学習した。倒れている人を見かけたら「どうしましたか」の一声をその場に居合わせた人が躊躇せずに掛けることが救命のリングを繋ぐ第一歩であること。また、意識の有無と呼吸の確認をしっかりと実行することが次の処置への基本である等、栃木消防署指導員の方々のユニフォーム溢れる指導により、学生たちは救命法に自信を持ったようである。終了後、参加者50名に「普通救命講習修了証」が手渡された。



興味深く話をする高塩博教授

平成20年1月30日午後12時50分から2時20分まで、國學院大學教授の高塩博先生をお迎えして、日本史学科講演会が催された。高塩先生は、國學院大學大学院法学研究科博士課程を修了後、田中千代学園短期大学助教授を経て、國學院大學日本文化研究所教授に就任、現在は同大学研究所開発推進機構教授に在職されている。専攻は日本法制史で、『日本律の基礎的研究』（汲古書院）・『江戸時代の法とその周縁』（同上）・『熊本藩法制史料集』（共編、創文社）・『唐令拾遺補』（共編、東京大学出版会）など、多くの著作や編書がある。

「公事方御定書」の制定とその刑罰体系

先生はまず、裁判の基準とすべき成文法ができたのは八代將軍徳川吉宗治世下の「公事方御定書」が最初であるとして、「御定書」の内容にふれられた。すなわち、死刑には鋸挽・磔・火罪・死罪・下手人の5種類、追放刑に

された。

「敵」の刑罰と徳川吉宗

ついで、佐久間長敬著『刑罰詳説』に掲載された図を基に、敵刑について詳しく説明された。敵は軽微な盗みの犯罪に適用され、軽きは五十、重きは百、鞭でたたく刑罰である。その執行方法は、公開

日本史学科講演会

江戸時代の刑罰制度 — 徳川吉宗と細川重賢 —

國學院大學教授・法学博士 高塩 博氏

は遠島・重追放・中追放・軽追放・江戸十里四方追放・江戸払・所払の7種類があるが、吉宗以前には刑罰は死刑と追放刑のみであり、このことは罪人を排除する思想があったことを示すものである。ところが、吉宗時代に敵・入墨・過料などの刑が新たに設けられたため、刑罰体系が大きく変わったことを明らかに

処刑であること、受刑者を裸にしたこと、身元引受人を出頭させて見学させたこと、軽い刑罰なのに牢屋奉行・検使と力・徒目付などが勢揃いして検分し大袈裟であること、に特色があった。敵刑は、吉宗が中国法の笞刑・杖刑にヒントを得て設けたものであり、執行方法などから、(一)精神的苦痛と肉体的苦痛とを

味あわせて、二度と罪を犯すまいという悔悟の念をおこさせることを期待した、(二)判決の当日に執行し即時に釈放したこと、受刑者のすみやかな社会復帰を目指した、(三)身元引受けの制により、釈放者の社会復帰を手助けした、(四)公開することにより、執行の様子を見学した人々に罪を犯すまいと自覚させた、などの意義があったとされた。そしてこの敵刑は、それまでの排除の思想と異なり、罪を犯しても再度社会復帰のチャンスを与えるという意味で画期的な刑であることと強調された。

熊本藩の「徒刑」と細川重賢

つぎに、熊本藩の徒刑の説明に移った。熊本藩六代藩主の細川重賢は刑法の改革を行い、追放刑は為政者の失政であるとしてこれを廃止し、犯罪人を拘禁施設に収容して強制労働を科すという、徒刑を創設した。この徒刑は、逃走をさけるため眉毛を剃ったが、就業の世話と教諭にその特色があった。すなわち、犯

罪人に就業資金を得させるため、城普請・溝浚え・開墾などの作業に従事させて資金を支給し、その一部を強制的に積み立てて、釈放のときに払い戻した。また、判決時の「向後慎之儀」、収容中の「心得条目」、釈放時の「教示書」の交付など、罪人に不断に説論を行ったが、これは「悔過遷書」という教化改善の考えがあった。つまり、この徒刑の目指すところは犯罪者の社会復帰であり、のちに、幕府の寛政改革を主導した。老中松平定信に採用されて、人足寄場の設置に生かされることになった、と話された。

おわりにあたり、こうした刑法の改革を行った徳川吉宗と細川重賢両人の共通点として、苦勞して育ったこと、勉強家であったことをあげられ、かかる境遇と学問により、新しい事柄を創造することができたのではないかと述べられた。さらに、歴史を学ぶ者は時代に即した解釈をするのが大切である点を指摘されて、感銘深い講演は終了した。

文責 教授 深井雅海

プロフィール

高橋 侑子（たかはし ゆきこ）さん
第38期日本史学科卒業。千葉県館山市在住。秋田県立湯沢北高校から入学。卒業後は栃木県埋蔵文化財センターに勤務する傍ら、日本史学科田中正弘教授のもとで研究生となり、一年後に海上自衛隊へ入隊。平成十八年より館山航空基地に勤務し、航空機の整備や搭乗員の装備品の整備を行っている。

私の学生時代

高校三年生の夏、進学先を決めかねていた私は、当時一番好きだった日本史を学べる短大ということで、本学を受験しました。今思えば、志望動機は極めて単純なものでしたが、学生生活はそれとは裏腹に非常に充実したものでした。特に二年目に入ってから、友人たちと毎日のように図書館へ足を運び、文献や史料を片手にどんな知識を吸収していききました。近代史の面白さに触れ、のめり込んでいったのもこの時期でした。幸いなことに、日本史学科の学科長である田中教授は近代史に精通している方だったので、私は卒論に近代史を選択し、田中教授のもとで近代史を学ぶことになりました。そして幕末・明治期について学んでいる中で、「海軍」と出会ったのです。この時、私は今更ながら日本が四方を海に囲まれた島国であること、それ故に先人たちは、幕

末の混迷時に海防を重視し、海軍を創設したことを知りました。そしてそれは、現在も変わらないということも。

しかし、この時はまだ知識を吸収することに夢中であった私は、そのことについて深く考えることもなく、日々の学生生活を送っていました。そしてそのまま三年目も研究生として短大に残り、週に一度を学生として、残りを社会人として過ごすことになったのです。数年後に自衛官になるなど、夢にも思っていませんでした。

自衛官への道

就職してから一ヶ月ほど経って、「この先の人生をどう生きていこうか」と考えていた頃、一冊の本に出会った私は、初めて「自衛官」を職業として意識しました。それまで、自衛隊という組織は私の中で未知の



横須賀教育隊時代に同期と撮影写真真が高橋侑子さん

生きている卒業生 22

自分なりの「国防」を

第38期生日本史学科 高橋 侑子

教育課程

海上自衛隊の女性隊員は、神奈川県横須賀市にある横須賀教育隊で、自衛官に必要な体力の練成や心構え、しつけ事項などを叩き込まれます。たった四ヶ月間で、それまで普通の女の子であった集団を「自衛官」に育てなければならぬのですから、おのずとその教育内容は厳しいものになります。

しかし、厳しい指導の中にも思いやりや優しさを感じられ、またそのような生活だからこそ、仲間との連帯感や助け合うことの大切さ、そして相手を思いやる心を学ぶことができました。今でも、この教育隊で苦楽を分かち合った同期は、私にとってかけがえの無い財産です。

世界で、恐そう・厳しい・特別な集団というようなイメージしかありませんでしたが、その時にふと、「自衛官だって普通の人間なんだから、私にだってできるのではないかな」と思ったのです。それからの毎日は「自衛官になる」という目標で頭がいっぱいになり、試験にむけての勉強に励みました。合格通知を頂いてから入隊するまでの日々も瞬く間に過ぎて行き、気付けば横須賀の地に立っていたのです。



実際に整備しているヘリコプター SH-60J

教育隊を修業すると、全国各地にある海上自衛隊の基地に配属され、一自衛官として日々の業務に励むことになります。私は海目の航空部隊に配属され、ほとんど男ばかりの職場で、新たな一歩を踏み出しました。戸惑うことや悩むことも初めは数多くありましたが、今では後輩もでき、仕事も徐々に覚えて、充実した毎日を送っています。

海上自衛官として

数多くある海上自衛隊の職種の中で、私は航空武器整備という職種に就いています。「武器」と聞くとなんか物騒な響きですが、私はその中でも人命救助に関わる装備品の整備を行う部署に配置されました。主な仕事としては、搭乗員が身につける装備品の整備、救助に使用する救命器材・救難器材の整備などです。

初めの頃は工具の名前も、整備法も何一つ分からず、先輩方に指導されるまま一つ一つの作業をこ

なしていました。最近では、なぜその整備が必要なのか、何がどうなるか危険なのかを考えながら作業するようになり、今更ながら自分の仕事の重大さと、責任の重さを感じています。

今にして思えば、短大に入学してから現在に至るまでの過程は、常に選択の連続でした。その都度、親や先生方、友人など多くの方に相談に乗ってもらい、励ましていただきましたが、結局最後に正直に向き合ったのは自分の心でした。どんな人生にしたいのか、何がしたいのか、どうなりたいたのか。悩んで悩みぬいた末に、これだと思った方向にがむしゃらに突き進んで、ここまでできました。思い返せば、短慮だったかもしれないと思うことも多々あります。けれど、その過程で得たもの、感じたことは一生の財産であり、何一つ無駄なものなどありませんでした。そして何より、自分で決めたことに言い訳は出来ません。もしこれが他人に強要されたものだったら、今の私はここにいないと思います。国防という、日本にとって重大な任務を担う職に就いていることを誇りに思い、これからも自分なりの「国防」を実践していきたいと思っています。そして、実際に自衛官として働いて得たものを糧に、いつかまた歴史と向き合いたいと思っています。

1年生への進路支援

●就職ガイダンス

12月11日、1年生対象の就職ガイダンスが行われた。最初に初等教育学科古川清美さん、家政学科横山可奈子さん、商学科根岸かほりさんの3名により、後輩への助言を含めた就職活動体験談が話され、次に商学科の河田美恵子教授より、基本的なマナーを中心に就職活動の心得についてお話しいただいた。

●分野別進路ガイダンス

2月25日、「一般企業」「公務

書道研究室だより



作品に魅入る来場者

◆第41回書道部校外展

1月18日から20日まで栃木市文化会館において校外展「斯花書展」を開催しました。この校外展は一般の方々に本学書道部の作品を通して、その活動を知っていただくことを目的として毎年開催し、今年で41回目となりました。会期中、木村好成理事長をはじめ、先生・関係者の方々にご支援を賜り、多くの方々にご来場いただきましたことをお礼申し上げます。

今回は国文・初等教育学科の

点から面接試験の際のポイントについての説明がなされた。

公務員・教員ガイダンスでは高森良友学生課長補佐より、公務員・教員採用試験等の種類と形態について説明された。

編入学ガイダンスは白山実教務課長より、編入学試験の概要と傾向、実績が説明された。

秘書検定1級合格

第83回財団法人実務技能検定協会主催の秘書検定試験が11月10日に実施され、商学科2年の中台晴香さんがみごと1級に合格した。

人形劇部定期公演

昨年12月21日午後、人形劇部ブツペブツペの第30回定期公演が栃木市文化会館小ホールで開催された。公演は、本学園二杉幼稚園年長児による可愛らしい歌声で始まり、学生による手遊びやエブロンシアター・トーンチャイムを披露した後、人形劇「きんのがちよう」の公演に移った。演目が終わりに惜しみない拍手が送られると、出演者の感動もひとしおとなった。

スキー&スノーボード実習

2月28日から3月1日までの2泊3日で、福島県箕輪スキー場において、体育研究室主催のスキー・スノーボード実習が実施された。

山下勝司教授・前田シン子教授・石山育朗教授の指導により、それぞれの技術の向上をはかるという目的を達成するとともに、参加者同志の交流を深める良い機会が得られ、意義のある実習となった。

さんの方々に伝えることができ、学生たちは卒業後も引き続き書の道に進む道標ができたように思います。

◆第62回日書展開かれる

戦後最も長い歴史をもつこの全国展は、1月4日から9日まで、上野の東京都美術館で開かれた。本学からは田中曉亭先生、佐伯司朗先生、佐伯方舟先生、坂本司進先生、相司禮先生が役員出品し、卒業生・在学生・聴講生が多数入選しました。

かな部二科入選 国文2年

◆平成19年度毛筆硬筆書写検定(文部科学省後援)

準1級1名、2級6名、3級28名合格。書道担当教員が、受験者に漢字の部首・筆順・実技等を授業中や放課後に指導しました。

文責 書道講師 佐伯方舟

平成19年度 サークル・ゼミ活動報告 (日程順)

団体名	期間	内容
コーラス部	4.5～4.7	入学式祝賀演奏・1年生歓迎会のための強化練習 (千葉県岩井海岸というRYO)
室内楽研究会	4.5～4.7	入学式祝賀演奏・1年生歓迎会のための強化練習 (千葉県岩井海岸というRYO)
児童教育研究会	4.5～4.7	1年生歓迎会のための強化練習と表現活動 (千葉県岩井海岸というRYO)
剣道部	4.28～4.30	新入生歓迎強化練習 (多目的ホール)
箏曲部	5.6・5.13	演奏会のための合同練習 (道の駅思川評定館)
書道部	5.8～5.9	新入生歓迎と毎日展出品制作 (練成館)
箏曲部	5.26～5.27	丹野井成寿社中箏曲演奏会に参加 (小山市文化センター)
古代史研究会	5.27	栃木県立博物館にて慈覚大師円仁とその名宝展を見学
みたらし	5.27	他のボランティア団体の活動の手伝い (とちぎ蔵の街観光館)
茶道部	7.4～7.5	七夕茶会に向けての強化稽古 (練成館)
酒寄ゼミ	7.7	国立国会図書館・神田古書街で資料収集
みづく倶楽部	7.8	斯花祭の食育のためにじゃがいもの収穫 (大越農場)
マジック研究会	7.9～7.11	技術向上のための練習と観戦会 (練成館)
近世史研究会	7.12	江戸城跡・江戸深川資料館・清澄庭園の見学
古文書研究会	7.12	国立歴史民俗博物館の見学
空手部	7.14～7.15	技術向上のための練習 (練成館)
考古学研究会	7.15	国立歴史民俗博物館の見学
中国語研究会	7.16	東京国立博物館(東洋館) 見学
東洋学研究会	7.20	国立国会図書館・神田古書街で資料収集
民俗学研究会	7.20～7.21	唐沢山神社探訪と現地調査 (練成館)
古文書研究会	7.20～7.21	古文書解説と読解力の向上のため (練成館)
コーラス部	7.21～7.23	斯花祭・定期演奏会に向けての強化練習 (片品村 スポーツガーデン330)
博物館学研究会	7.25	埼玉県立歴史と民俗の博物館見学
近代史研究会	7.26～7.27	飯盛山・鶴ヶ城・日新館見学(ホテルタカコー)
古代史研究会	7.27～7.30	京都・奈良・滋賀の史跡見学 (ホテル京阪京都)
みたらし	7.27・8.1・8.24	栃木市そのべ児童館の夏休みボランティアに参加
テニス部	7.30～8.1	技術向上のための練習と観戦会 (芦野温泉)
バレーボール部	7.31	佐野短期大学との練習試合 (40周年記念館)
バレーボール部	8.1～8.3	全国大会に向けての強化練習 (練成館)
考古学研究会	8.3～8.12	新潟県長岡市山下A遺跡での考古学実習・新潟県立博物館・長岡市立科学博物館の見学
卓球部	8.6～8.8	第42回全国私立短期大学体育大会に出場 (新宿コスミックスポーツセンター)
バレーボール部	8.6～8.8	第42回全国私立短期大学体育大会に出場 (川崎市とどろきアリーナ)
テニス部	8.6～8.9	第42回全国私立短期大学体育大会に出場 (小田原テニスガーデン)
バスケットボール部	8.6～8.9	第42回全国私立短期大学体育大会に出場 (東海大学短期大学部体育館)
バドミントン部	8.6～8.9	第42回全国私立短期大学体育大会に出場 (南足柄市体育センター)
中世史研究会	8.9～8.11	滋賀県長浜市・彦根市周辺史跡見学
物と伝承部	8.9～8.11	京都市民俗行事六道めぐりを見学 (興正寺)
写真部	8.21～8.22	知識と技術の向上を目的とした撮影研修と観戦会 (国民宿舎サンレイク草木)
考古学研究会	8.21～8.29	栃木市城内町円通寺での考古学実習(練成館)
児童教育研究会	8.24～8.25	新入生歓迎会及び表現活動(栃木県立太平少年自然の家)
千明ゼミ	8.27～8.28	平家物語に関する遺跡巡り (鎌倉・あじさい荘)
田中正ゼミ	8.31	近代史卒業研究中間報告会 (第2学生指導室)
深井ゼミ	8.31	近代史卒業研究中間報告会 (日本史学科1研究室)
コーラス部	8.31～9.2	定期演奏会に向けての強化練習 (練成館)
こ塩ゼミ	9.1	ゼミ論文指導会(第3演習室)
鍛代ゼミ	9.2	小山市内史跡見学
バレーボール部	10.13	関東短期大学・佐野短期大学との練習試合 (40周年記念館)
みたらし	10.13	栃木市文化祭に参加 (栃木市文化会館)
みたらし	10.14	街を遊ぶ忍びごっこin栃木にボランティアとして参加 (とちぎ蔵の街観光館)
みたらし	10.14	あゆみ園の運動会への奉仕活動 (栃木県立栃木養護学校)
みたらし	10.27～10.28	とちぎ協働まつりへの参加 (栃木市総合運動公園)
書道部	10.30～10.31	斯花祭展示作品の制作 (練成館)
近世史研究会	11.2	東京国立博物館見学
茶道部	11.7～11.8	斯花祭に向けての稽古 (練成館)
フットサル部	11.19	國學院大學栃木高等学校との練習試合 (高等学校グラウンド)
剣道部	11.30～12.1	関東女子学生剣道新人戦大会出場 (東京武道館)
コーラス部	11.30～12.1	第30回定期演奏会で演奏 (栃木市文化会館)
こ室内ラシ	11.30～12.1	第30回定期演奏会で演奏 (栃木市文化会館)
室内楽研究会	12.8	クリスマス会 (栃木市健康福祉センターレクリエーション室)
人形劇部	12.21	定期公演会で「きんのがちよう」を上演 (栃木市文化会館)
室内楽研究会	12.21～12.22	アンサンブルコンテストに向けての強化練習 (栃木市文化会館)
室内楽研究会	12.26	第39回栃木県吹奏楽アンサンブルコンテストに出場し、打楽器八重奏が金賞を受賞 (宇都宮市文化会館)
書道部	1.18～1.20	斯花書展校外展 (栃木市文化会館)
室内楽研究会	1.26	第13回関東アンサンブルコンテストに出場し、打楽器八重奏が銀賞を受賞 (宇都宮市文化会館)
箏曲部	2.26～2.27	國學院大學栃木二杉幼稚園でお琴の演奏会
博物館学研究会	2.27	江戸東京博物館見学

行事・集会

行事・集会

12月

集中・補習講義

就職ガイダンス

フードスペシャリスト資格認定試験

家政1・2年生群馬県立盲学校視察

日本史学科1年生古文書調査実習

初等教育学科音楽発表会

冬季休暇

授業再開

初等教育学科卒業研究・制作提出

2年生後期試験

初等教育学科卒業研究(音楽発表会)

商学科1年生日産自動車栃木工場見学

日本史学科講演会

家政学科臨床実習発表会

A方式入学試験

1年生後期試験

筑波大学附属小学校観察

初等教育学科卒業研究(論文発表会)

卒業確定者発表

進路ガイダンス

日本史学科卒業研究発表会

日本史学科1年生普通救命講習会

家政学科1年生普通救命講習会

スキー・スノーボード実習

B方式入学試験

卒業式予行

第41回卒業式

〇本学国文学会発行 野州國文學第80号・81号
 〇本学初等教育学科発行 夏期教育研修の記録第40集
 〇本学史学会発行 栃木史学第22号
 〇本学商学会発行 國學院商学第17号

本学および関係者出版紹介

卒業生の皆さまへ

事務局告知板

卒業生の皆さんと大学との連絡窓口は教学部です。卒業後も皆さんのためにお世話したいと思っていますので、折にふれ母校を思い出し、連絡を絶やさぬようお願いします。

教務課より

【各種証明書の交付申請について】

単位成績証明書・卒業証明書・人物証明書・推薦書などの発行は、原則として申請を受けてから3日後になる。

できる限り期間に余裕をもって申請すること。手数料は、各1通200円。現金または郵便切手で納入すること。

◆ 郵便による申請

必要事項（卒業年月日、学科、在学時の組・番号、氏名、本籍地、生年月日、提出先、用途、証明書の種類など）を明記した別紙、手数料、返信用封筒（宛先明記・返信用切手貼付）を同封のうえ、郵送する。

指定用紙がある場合は、必ず同封すること。

◆ 電話・FAXによる申請

必要事項（前記）を電話・FAXで連絡する。

証明書は請求書を同封して郵送するので、着信後、その請求書とともに手数料と郵送料を納入する。

【教員免許状授与と証明書の申請について】

授与権者である栃木県教育委員会教職員課へ申請する。

①授与年月日

②授与番号 (例) 「中2種○○号」

③免許教科名 (例) 「家庭」 [注] 中学校教諭のみ

④卒業年月日・國學院大學栃木短期大学

以上4項目を明記した別紙、手数料420円（現金または栃木県収入証紙420円分）、返信用封筒（定形最大・宛先明記・返信用切手90円分貼付）を同封のうえ、下記宛に申請すること。

住所 〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田1-1-20

名称 栃木県教育委員会事務局教職員課

電話 028-623-3391

また、栃木県教育委員会ホームページ「とちぎの教育」で手続きのダウンロードサービスを行っています。

【教員免許状・諸資格証明書・卒業証書の写しの提出について】

各自の手元にある教員免許状・諸資格証明書・卒業証書を文面通りに書き写し、発行者印・契印の枠を赤鉛筆で明示して提出する。または、コピーに原本を添えて提出する。なお、写しに証明印が必要な場合には、それぞれ授与権者・教務課でその証明を受けること。

【戸籍に異動が生じた場合の手続きについて】

◆ 各種証明書に関して

戸籍抄本と、卒業年月日、学科、在学時の組・番号、氏名（旧姓）を明記した別紙を、教務課へ提出すること。この手続きをとらないと、証明書は旧姓での発行となる。

◆ 教員免許状に関して

戸籍抄本および、前記①～④の事項を明記した別紙を、栃木県教育委員会事務局教職員課へ提出すること。

学生課より

学生カードには卒業後の記録も記入しておきたいので、氏名、住所、電話番号、勤務先等の変更があった場合は、必ず連絡すること。卒業生名簿の管理や学報等の送付に役立てたいと思う。また、卒業後も就職についての相談にのれるので、必要な場合は連絡すること。

図書館のアフターサービス

図書館は全学の学生・教職員に奉仕する機関であることは常々口にしてはいることですが、図書館の持つ諸機能は卒業生に対しても同様の働きを持っています。

【レファレンスワーク】

参考業務の利便さは、一度利用した人ならご存知だと思うが、近くの人なら電話で、遠方の人なら文書で質問を寄せていただきたい。調査のうえ回報することは、在学生と同様である。遠慮なく利用していただきたい。

【閲覧・貸出・複写サービス】

ルールさえ守ってもらえれば、どんな要求にも応じることができる。

学外利用者の登録をすれば、館外貸出も可能。複写依頼にも応じている。

【日曜開館】

永久に続けるつもりで始めたものである。ご利用いただきたい。

国際的な競争社会にあつて、日本がリーダーとしての役割を果たすには、先ず日本の国益を計ることに国民皆が協力することが必要だ。日本の国の発展が人類の幸せをもたらす最有効方法であるとの自信を持ち、各自が国に役立つ人になつて欲しいもの。
(好)

有史以前の神話の時代から続く長い歴史の流れの中で、日本人が培ってきた民族文化の水準の高さは、現在の国際社会の中にあつても大いに誇つていいことだ。それなのに、徒に自らの国を卑下したり、蔑んだりして、若者たちの自尊心を傷つけたりする文化人とか有識者と称するひとがいることは、まことに残念なことだ。かつて、戦後の日本の復興にひたすら力を尽くした政治家が、世を惑わす学者に対して、「曲学阿世の徒」と呼んだことがあったが、為にする言動は国の力を削ぐものであり、発展への勢いを遅滞させることでもある。

もとつこころ

二年前に縁あつて、本学に学んだ四十一期生は、國學院大學の建学の精神のもとで多くのことを学んだことと思うが、国を想う心と、自己の徳性を涵養する心掛けは持ち続けて欲しい。